

地域の課題解決に向けて 赤い羽根共同募金運動の成果

助成の事例 地域のさまざまな課題を解決するために

赤い羽根共同募金に寄せられた募金の約7割は、募金をいただいた市区町村内で使われます。残りの約3割は、皆さまの住んでいる都道府県内で、広域的な課題を解決するための活動に使われています。

令和6(2024)年度にお寄せいただいた募金により、全国約44,000件の地域福祉活動を応援しました。ここでは、共同募金により応援した活動の一部を紹介します。



栃木県 鹿沼市立中央小学校

募金活動
のようす

ネット募金

赤い羽根共同募金にインターネットで
ご寄付いただけます。



はねっと

赤い羽根共同募金の使いみちはこちらから
ご覧いただけます。



ひとり暮らし 高齢者 交流サロン事業



長野県 御代田町社会福祉協議会
(一人暮らし高齢者の会 むつみ会)

むつみ会では、ひとり暮らしの高齢者が集まり、支え合う場を提供しています。さまざまなプログラムを通じて参加者の交流を促し、仲間づくりを大切にしながら、共に時間を過ごし、励まし合うことで、安心できるコミュニティを築くことを目的としています。孤立を防ぐとともに、地域の絆を強める活動として、住み慣れた町に根差した温かな支え合いの場をめざしています。

療育キャンプ (シーティング) 研修会



沖縄県 沖縄県肢体不自由児者父母の会連合会

車椅子を利用する障がい児とその家族は、変形や脱臼などの二次障害を避けられないものと考えてきました。しかし、筋肉や緊張のアンバランスによる姿勢の崩れが原因であり、適切なシーティング(座り方)によって防ぐことができます。そこで、幼少期からシーティングの重要性を知ってもらうため、広く告知し、5年ぶりにホテル泊の療育キャンプを開催しました。子どもたちの車椅子環境が少しでも良くなればと願っています。

出張認知症カフェ



兵庫県 認知症を支える家族の会スマイル

認知症の家族がいる方たちが、お茶を飲みながら認知症チェックや予防の学習、情報交換を気軽に行える場となりました。介護・医療分野の専門職の方たちに相談もでき、認知症の家族を介護する方や経験者、介護に関心のある方が交流を深め、情報交換ができました。参加者からは「話を聞いてもらえて嬉しかった」「心の整理がついた」「介護の参考になる」「仲間がいる」「癒される」といった声が寄せられました。

子育て支援事業 “子育てについて みんなで語ろう!”



島根県 西ノ島町社会福祉協議会

子育て世代が集まり、カレーライスを囲んで食事を楽しみながら、子育ての悩みや喜びを語り合う場を提供しました。地域の親同士のつながりも生まれ、多くのボランティアの方々にも参加いただいたおかげで多世代の地域交流の場となりました。参加者からは「また参加したい」という声が多く寄せられ、地域に根付く温かなコミュニティとして期待が高まっています。

▶ 令和6(2024)年度 共同募金の概要

募金総額

共同募金総額	165億2,189万6,591円
赤い羽根共同募金	125億5,485万9,512円
地域歳末たすけあい募金	34億7,475万8,186円
NHK 歳末たすけあい募金	4億9,227万8,893円

助成総額

共同募金助成額	137億8,517万4,274円
赤い羽根共同募金による助成	101億797万8,910円
地域歳末たすけあい募金による助成	32億2,805万4,695円
NHK 歳末たすけあい募金による助成	4億4,914万669円



広島県 福山市立山南小学校

募金活動
のようす

大分県 別府大学「別府BBS会」

除雪
ボランティア事業

福島県 金山町社会福祉協議会

高齢者や身体が不自由な方など、除雪が困難な方のご自宅では、雪に埋もれてしまい、外出が難しくなることがあります。こうした状況に対応するため、地域の除雪ボランティアが協力し、雪かきを行っています。この活動によって、日々の生活が支えられるだけでなく、落雪や家屋の倒壊といった二次被害の防止にもつながり、また、助けが必要な方がいるという認識ができるため、緊急時の支え合いにも役立ちます。

災害
ボランティア
センター事業

高知県 中土佐町社会福祉協議会

災害ボランティアセンター基礎研修を継続的に実施し、それにより住民の危機意識も高まり、年々関わる団体や住民が増加。有事に備えた取り組みが進んでいます。令和6(2024)年度は被害想定や会場をこれまでと変更し、新たな気づきが得られました。今後も多様な被害を想定した訓練を行い、地域の防災・減災力向上をめざします。

節分の日
鬼訪問事業

千葉県 御宿町社会福祉協議会・かぐやdeアミーゴ

節分前に、子どもたちが鬼に扮し、地域の高齢者宅や老人ホーム、集いの場を訪問し、高齢者と交流しました。ふだん、小さな子どもと接する機会が少ない高齢者は、元気な子どもたちの姿に喜び、笑顔が広がりました。参加した子どもや保護者も、さまざまな人と触れ合い、地域での子育ての大切さを実感できました。この活動を通じて、世代を超えたつながりが生まれ、子育てしたくなる町づくりのきっかけとなりました。

生きづらさを抱える
若者を
晴れ着で応援

福井県 越前市「みんなの食堂」実行委員会

「成人式に晴れ着を着られなかった」「振袖を着たかった」——養護施設に入所していた若者たちの声を受け、晴れ着を着て記念撮影をするプロジェクトを実施しました。施設職員とのかかわりを通じて、若者が社会の中でつながりなしに自立する難しさを改めて感じ、つながりを作ることが解決や改善の鍵になると実感しました。この事業を通じて、生きづらさを抱える若者に寄り添い、彼らが前向きに歩んでいけるよう応援していきたいと考えています。